「人がつくる　人でつくる。」を「見える化」する現場管理を目指して

――（仮称）花咲団地マンション建替え事業新築工事における安全衛生管理活動――

1. はじめに

本工事は、1958 年（昭和 33 年）に日本住宅公団（現：都市再生機構）より供給された、築 52 年の団地（4 棟×RC 造地上 4 階建）に、隣接する神奈川県所有地（約 5,10035 ㎡）を加えた区域における、「マンション建替え円滑化法」に基づく団地の建替え事業である。

2002 年に「花咲団地建替検討委員会」が設置され、都市再生機構の支援により建替えの検討が開始され、2006 年「新日鉄都市開発」を幹事企業としたグループの一員とし40て事業協力し、2009 年工事着手の運びとなった。

この工事における発注者である建替組合のニーズの 1 つに「近隣と良好な関係を築くこと」「全工期無災害で竣工」があり、これらの実現に向けて今現在、現場で行っている安全衛生管理活動についてここに報告する。

図-1　敷地周辺地図

現場全景

2. 工事概要

工事名称：(仮称)花咲団地マンション建替え事業新築工事
工事場所：神奈川県横浜市西区花咲町四丁目 111 番 2 他
発　注　者：(仮称)花咲団地マンション建替え組合
設計・監理：[redacted]
工　　期：解体 2009 年 4 月 2 日～2009 年 9 月 30 日
　　新築 2009 年 11 月 2 日～2011 年 12 月 8 日
　　（25 か月）
請負形態：単独
建物用途：共同住宅　住戸棟 3 棟(368 戸)+共用棟
構　　造：RC 造(基礎免震構造)
敷地面積：11,948.55 ㎡
施工延床面積：38,822.34 ㎡

図-2　完成予想図

3. 施工条件

(1)環境条件

現地周辺は県立図書館、青少年センター、能楽堂などの文化施設や有名な公園や神社等があり、文化的な環境となっている。

敷地南側にある紅葉坂に面した高低差約 20m、南北の奥行 200m の敷地である。西側は婦人会館他県施設、北,東側には高層マンションや木造家屋等が接している。紅葉坂は大型車両規制のため、事前の警察署への届出が必要となり、９時から１７時の時間制限がある。

(2)建物特性

工事の特徴として、取得した県有施設、団地・周辺擁壁を解体後、本体工事を着手している。建物は高さ 31mの住宅 3 棟（全体 368 戸）で基礎免震となっている。また、共用棟がそれ以外に計画されている。躯体は原設計ですべて在来工法であるが、工業化工法を採用している。

4. 安全衛生管理活動の基本方針

当社のブランドスローガンに「人がつくる、人でつくる。」がある。そのイメージは「ここで過ごす人々の姿を、ここからはじまるしあわせをイメージしながら。アイデアでつくろう。情熱でつくろう。さまざまな人の想いをつないでつくろう。アタマとココロを使って人間にしかできないものづくりを目指して。人がつくる。人でつくる。それが[redacted]のやり方です。」となっている。

これらをキーワードに作業所スローガン「夢・勇気・情熱」と合せて「安全のタスキをつなぐ」をもう一つのスローガンとして、職長会と一体化した活動を行うことを現場の基本方針としている。

5. 具体的な活動内容

それらの「見える化」を計るために行っている活動を 3 つの作業所方針に沿って具体的に説明する。

（1）「自分を、他人を、現場を大切にする。」

（2）「1 人ＫＹ、1 声かけ、１つかみ。」

（3）「美意識を持って現場を創る。」

（1）「自分を、他人を、現場を大切にする。」

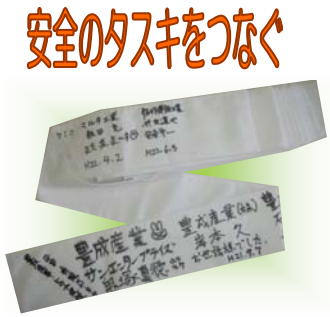
①腰痛体操

月２回、NHK のラジオ体操のお姉さんを招いて２０分程度ストレッチ体操を行っている。

腰を中心に体全体をほぐすのが目的ではあるが、体操を通じて作業員同士のコミュニケーションをスムーズにすることを狙っている。

②無災害へのメッセージ

「安全のタスキをつなぐ」をスローガンに、工事が完了した業者の職長から、無災害のメッセージを後続業者に送るとともに、安全のタスキにコメントを書いてもらい、全工期無災害を願っている。



③イケメン大賞

「現場を大切にする」をスローガンに、笑顔が絶えない現場を作るため、現場を生き生きさせられる『朗らかな人』を『イケメン』として、定期的に表彰している。

④セーフティリーダー（安全指導員）

３棟それぞれ違う業者が工事を行う中、どうしても優劣がついてしまうが、そこにセーフティリーダーによる指導が入ることで、各棟が切磋琢磨して、よりよい現場作りをする役割となっている。いわゆる「縁の下の力持ち」である。

主には、安全帯１００％使用推進の為の２丁掛けの徹底、親綱先行張りの１００％を指導している。

（２）「1 人ＫＹ、１声かけ、１つかみ。」

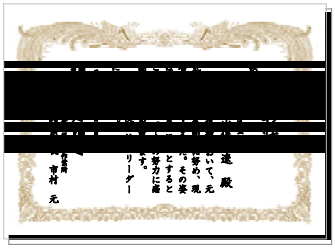
①1 人ＫＹ活動

当作業所では、職長会による自主的な朝礼・昼礼を行っているが、朝礼では一人ＫＹ活動を推進している。毎日一人指名し壇上にて発表してもらうことで、一人一人の安全に対する意識が向上するようにつとめている。

②声かけリーダー

声かけリーダーを毎月選任し、表彰している。

元気に挨拶でき、作業所の士気向上に貢献した作業員を「声掛けリーダー」として黄色チョッキを着てもらい、みんなの手本となってもらっている。



③1 つかみ運動

「１つかみ運動」とは、１０時・１２時・１５時の休憩時に詰所に戻る途中で見つけたゴミは、ポケットに入れて、分別ﾔｰﾄﾞに捨てましょう、という運動の事である。

常にきれいで作業のしやすい仕事のはかどる安全な作業所を目指すため、この「1 つかみ運動」を実践するとともに、産廃処理業者による分別の講習会を開くなどして、ゼロエミッションを推進している。

また、週１回金曜日の一斉清掃時には、作業所周辺道路の清掃も行い、地域活動に貢献するようにしている。

（３）「美意識を持って現場を創る。」

①快適職場の推進

当作業所は、横浜支店の快適職場のトップランナーとなるべく、いろいろな工夫、努力をしている。

ア．熱中症対策として、各棟に冷水機、ミスト扇風機、氷、スポーツドリンクの設置、一斉清掃後のアイスクリームの提供を行っている。

イ．ユニットシャワー室の整備

ウ．現場からの要望で売店は朝６時半から営業し朝食を必ずとる様に指導している。

また、防塵メガネ、マスク、２重掛け安全帯、切創防止手袋、ホカロンといった必要不可欠な物を格安で提供し、物が無いから出来ない、という状況を作らない様に努めている。

②横浜ルールと花咲ルール

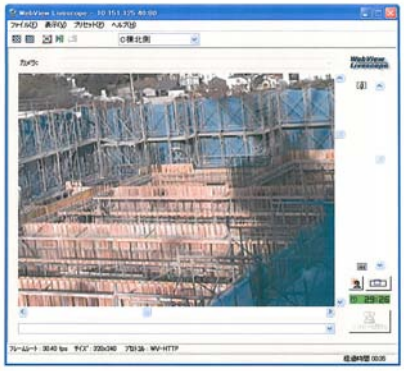
ア．横浜支店には３０以上の支店独自のルールがあるが、当作業所では新たな追加と見直しを、職長会と行うことでマンネリ化を防ぎ、新たな気持ちを継続させている。

「３・３・３ルール」とは玉掛け時に３秒間止めて、０．３ｍの地切り、３ｍ離れる、であったが、０．３ｍの地切りでは下部の玉掛け状況が確認出来ないという事で、１．３ｍの地切りを推奨している。そして、玉掛け者全員で　「３・１・３・３ルール」のカードを携帯してもらっている。

イ．立馬については、新規入場者教育時に５分のビデオを見せ、使い方の指導を行い、修了者にはヘルメットにステッカーを貼っている。これにより、立馬による事故を防ぐ環境作りを行っている。

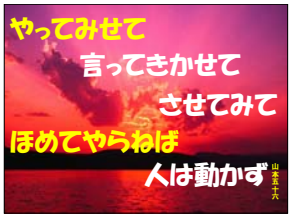
③ウェブカメラの活用

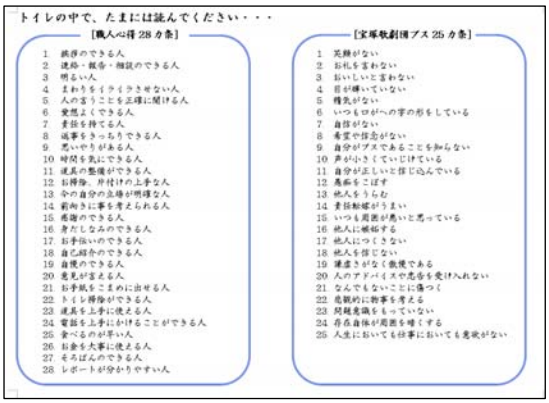
現場をタワークレーンポストに４台のウェブカメラを設置して、作業所全体の安全管理(点検)をリアルタイムで行っている。そのデータ（写真）を打合せ時に発表し、視られている意識を高めることで、安全帯使用の徹底等に役立っている。



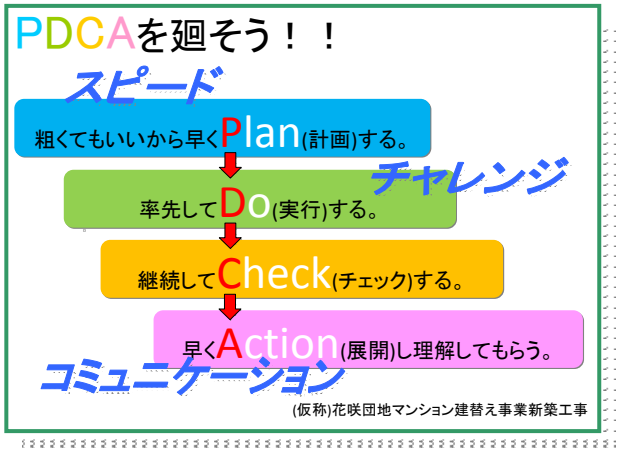
④味のあるメッセージの掲示

不定期ではあるが、メッセージ等の掲示については読む人が分かりやすいように、また、読む人の心に響くように、視覚的に訴える掲示を心がけている。これにより、現場全体の美意識の高揚に努めている





6．まとめ

現場ではそれ以外にもいろいろなテーマを切り口に職長とともに現場運営をしている。そのベースとして、職長の顔写真入りのを立入禁止看板、資材管理看板に付けており、顔のわかる現場管理「見える化」を計っている。

当作業所は、第１回日建連の快適職場の表彰を受けることになった。全国にある数千の現場の中から選ばれたことは真に喜ばしいことである。この名誉に恥じることのない様、「スピード、チャレンジ、コミュニケーション」をキーワードとして今後も職長会と一体となった安全衛生管理活動の PDCA を継続して廻し続けて行きたい。常に新しいテーマを設け、アタマとこころをよく使うことで同時に社会に対しても積極的に情報発信し、魅力ある建設業の実現のため努力して行きたい。